

五月九日（土）に今年度の総会を開きます

今年度の開発教育協議会総会を五月九日（土）午後一時半から五時までの予定で、東京都新宿区神楽坂（最寄り駅は地下鉄東西線神楽坂駅、JR総武線飯田橋駅からも徒歩15分ほど）の神楽坂エミールで開催します。今年度の活動方針や協議会の運営について協議する総会ですので、ぜひ、会員の皆様のご参加をお願いします。議題その他を含む詳しいご案内は別途、直接にお届けします。

ユニセフ： 開発教育の目的は
地球の視野をもたせること

地中海沿岸の10か国のユニセフ関係者が集まって、第2回開発教育地中海会議を昨年10月にスペインのバルセロナで開いた。席上では地中海周辺諸国の児童問題やユニセフの活動についての情報が交換されたが、ユニセフの開発教育（昨年7月のニュースレターで紹介したように、ユニセフは Education for Development 略称 EDev という）について、ニューヨークユニセフ本部のゴッドウインが次のように説明した。

「開発教育は、この世界とそこに生きる人々についての知識、人間がどこでどうしているのか、その生活にはどんなことが影響しているのかということについての知識に、地球的な視野を加えていく過程である。また、開発教育はこの地球的な視野を身につけていくための地球的な（global approach）学習教授過程である」

ユニセフの EDev News に掲載された短い記事からはこれ以上のことはわからないが、別項にあるように、ゴッドウイン女史を囲む開発教育協議会員の会が4月8日に東京で開かれる。

メキシコ衣裳で登校する日 - イギリス
ユニセフの募金キャンペーン

イギリスの学校には一年に一度だけ、自分が好きな衣裳で登校してよいというきまりがあるそうだ。それに見合う寄付をするという条件だが、それを生かして、イギリスのユニセフが年に一度の非制服登校募金キャンペーンを始めている。今年で四回め、そして今年の提案は、メキシコの衣裳を着て登校しよう！

このキャンペーンにむけて、イギリスのユニセフ国内委員会では、メキシコの子どもたちとその生活を主題とした写真パネルを作成し、教師向けにメキシコ紹介の冊子を作成した。冊子は教育省の全国標準カリキュラムにあわせたメキシコの地理と歴史教材のほかに、ユニセフのメキシコ協理事業、メキシコの子どもたち（イギリスの子どもたちとの保健比較資料も含む）、メキシコの歴史（マヤとアステカ文明）、メキシコ衣裳で登校する日のキャンペーン方法などが盛り込まれていて、各学校に写真パネルとともに無料で配布された。（ジュネーブユニセフ発行の EDev Newswire 92 /03から）

なにが大切か - 地域社会と開発

これは開発教育の事例研究教材である（L.テイラーほかによる耳を傾ける時-開発の人間性から）……開発事業の視察に、地域社会開発担当官（CDO）に同行して、たくさんの問題をかかえている村を訪問した。保健問題だけを見ても、診療

所はないし、村人はマラリア、回虫、住血吸虫など、あらゆる病気に悩まされている。学校はあるが、粗末な建物で教師はいないも同然の状態。

CD0は住民のニーズを話し合うための村民会議を開いた。「一番必要なのはサッカー場をつくることだ」と村民は言った。私は驚き呆れた。「いいね」とCD0は言った。「いいアイデアだ」

村民はサッカー場をつくり、サッカーの練習を始め、他の村と試合をするようになった。自分たちのサッカーチームをもてたことが村の生活を変えた。村人は自信をもち、互いに話し合う場をもち、自分たちでものごとを変えられるという感じをつかんだ。

そして村人たちは村の生活を変える‘もっと大事な’仕事に取り組み始めた。だがそれはほんとうにもっと大事なことだったのだろうか。村人たちが自分たち自身が地域社会であるという気持ちをもつなにかが必要なのだという感じ、それを自分たちの手でつくることができるという自信、それが村の診療所を建てることに第一の優先順位をあてるべきだという、私のような‘部外者’の考えよりも、ずっと大きな意味があったのである。

これが地域社会と仕事をすすめる方法についての私の考えを変えるきっかけになった。後になって、サッカー場が十代の飲酒問題と取り組むのに役立ったという話をたくさん聞いた。……

これは開発教育の事例研究材料になる話である。たとえばこの話をもとにして、サッカー場が村人による決定であることがどんなに大切なことだったのか、地域住民の感情はどんなに大切なことなのか、自分の主張を通す時と他の意見を受け入れる時を決めるのは容易なことだろうか、などを討論することができる。自分たちの地域社会がどうなのかを討論する糸口にもなる。

この場面のアとの、私とCD0の会話をロールプレイさせるとよい。村の協議会における地域開発論議をシミュレーションさせることもできる。

どこまで増えるか 地球の青年人口の動向

国連の人口基金によると、15歳から24歳までの青年人口は、1950年の4.6億人から1985年には倍以上の9.4億人を超え、2000年には10.7億人、2025年には13.9億人になるだろうという。1990年の数字をみると、青年人口の82%がいわゆる発展途上国に属している。

総人口に占める青年人口の比率は1990年の19.1%（日本は1989年に15.3%）から次第に低下し、2025年には17.1%になる予測である。しかし発展途上国では現在、青年が総人口の20%をしめ、中でもアジア地域がもっとも高く20.5%となっている。2025年にはアフリカがもっとも高く21%を超えているだろうと予測されている。現在の青年人口の増加率は年1.8%で総人口の増加率よりも僅かに高く、14歳以下の児童人口の増加率の倍以上となっている。それは1960年代と70年代に児童人口が急速に増加した結果である。

国連の人口基金はこういう人口動向に関連して、青年の早婚問題を指摘している。早婚傾向は家族構成を広げることになり、世代間の年齢差を少なくして、その結果、出生数の急速な増加を生んでいるというのである。晩婚の奨励、出生抑制策が奨励されている。

しかし人口問題に対する各国の態度は、抑制策だけに統一されているわけではなく、人口規模はそれぞれの国の開発問題の可能性と見合って決められるべきで、抑制だけというのは発展途上国の立場を無視した主張であるという反発もある。

1995年が国連結成50周年、そして国際青年の年10周年にあたるので、国連総会はその年に、西暦2000年をめざす地球全体の青年事業計画を討議することを決めている。人口問題と開発問題は青年が当面する最重要問題であるので、環境と開発に続いて、青年と開発がこれからの世界の大きな話題となっていくだろう。

お知らせとご案内です

§ ユニセフ開発教育担当官を囲む会
開発教育協議会は日本ユニセフ協会の世話で、ニューヨークのユニセフ本部で開発教育を担当し

ているノラ・ゴッドウィンさんを囲む開発教育懇談会を4月8日（水）午後6時から東京都新宿区西早稲田の日本YMCA同盟会議室で開きます。参加者は申し込みの先着40名、協議会会員に限ります。往復はがきに住所、氏名、電話番号、そして懇談会参加希望と記して協議会事務局に申し込んでください。

§ アムネステイからのご案内

* 3月7日午後2時からフランスの元法務大臣、ロベール・バダンテール氏を迎えて FORUM90-II 死刑廃止についての講演とシンポジウムを、東京都千代田区内幸町の日比谷公会堂で開きます。問い合わせは03-3585-2331のフォーラム90実行委員会まで。

* アムネステイ入門セミナーを毎月開いています。東京では3月8日（日）と21日（土）いずれも午後2時から東京事務所で、大阪では3月14日（土）午後2時からと27日（金）午後7時から大阪事務所で、いずれも会費300円。電話で申し込むこと。東京事務所03-3203-10050、大阪事務所06-376-1496。

* アムネステイ野路菊グループが3月29日（日）午後1時半から兵庫県私学会館大ホールで朝鮮人従軍慰安婦問題はいまと題する神戸集会を開きます。一般参加費前売り1,000円、学生は前売り700円。078-982-2011（夜間だけ）へ電話で申し込んでください。

§ ジャプラニールの開発教育

ジャプラニール=市民による海外協力の会では基礎講座の一つとして、3月13日（金）午後7時から開発教育を題材にする学習会を東京都新宿区西早稲田の事務局で開きます。問い合わせは03-3202-7862。

§ NGO国際フェスティバル

東京YMCAでは開発協力NGOを主とする21の民間団体と協力して、3月19日（木）午前11時から20日（金・祝）午後3時までの間、東京都千代田区美土代町の東京YMCA国際センターでNGO国際フェスティバルを開きます。参加NGOの活動紹介、物品販売、講演、ビデオ上映、写真展示など、にぎや

かな内容です。入場無料。問い合わせは03-3293-7011へ。

§ サヘル・セミナー

サヘルの会（TEL03-3460-3912）では、次のような日程で地球の砂漠化を学習するセミナーを開きます（日時・主題・会場の順）。詳しくは主催者まで問い合わせること。

3月21日（土）午後3時、海の砂漠化、東京都渋谷区上原区民会館

3月28日（土）午後3時、水循環と都市の砂漠化、東京都新宿区西早稲田 早稲田奉仕園

4月18日（土）午後3時、商品作物と砂漠化、東京都新宿区西早稲田 早稲田奉仕園

§ 青年海外協力隊活動報告会

青年海外協力隊を育てる会と東京都町田市のザエクスチェンジでは、3月25日から30日まで東京都町田市のピーミー町田大丸8階（JR横浜線・小田急線町田駅前）で展示会やバザーを開き、25、26日には食や衣を通して知る世界という催しを隊員の報告会と併せて開きます。問い合わせや申し込み（一部有料）は0427-24-8241ザエクスチェン

ジまで（午後5時半まで）。

§ アジア・アースデイ・1992・まつやま

4月11（土）12（日）の両日、松山市の総合コミュニティセンターなどで、シンポジウム、演劇、展示、オリエンテーリングなどを開き、アースデイをアピールします。問い合わせは0899-45-5106の実行委員会まで。

§ 地球市民実践の第一歩集会

横浜海外交流協会は、4月26日（日）に地球市民実践の第一歩という集会を、横浜市中区山下町産業貿易センタービル内の横浜シンポジアで開きます。午前はワークショップ、午後はシンポジウム、そして夕刻は懇談会と盛り沢山の企画ですが、参加費は前売りで1,000円（昼食と歓談会費を含む）。問い合わせは045-671-7128の同協会まで。

§ 高校生エッセイコンテスト

国際協力事業団では今年4月現在の高校生を対象に、開発途上国理解や国際協力についてのエッセイを募集しています。題は自由で、400字詰原

稿用紙5枚以内です。ほかに住所・氏名電話番号・年齢・性別・学校名・学年を記したAサイズ用紙を添えること。4月30日までに国際協力事業団各支部に必着。発表は6月上旬で、特選4名にはアフリカ研修旅行、南米研修旅行などの副賞がついています。問い合わせは国際協力事業団各地支部あてに。

協議会事務局から

★ 第54回理事会

1月28日の午後開催し、監事の委嘱、理事交替について協議した後、今後の開発教育運動の進め方について意見を交わした。また来年度(5月以降)活動方針や予算を検討し総会の準備に入った。

★ 91年度第8回運営会議

1月28日の夜開催し、総会、全国研究集会、情報センターなどについて意見を交わした。

★ 91年度第9回運営会議

2月10、11日の両日、開催した。協議会の役割と可能性について意見を交わした後、具体的な問題に関する今後の取り組みの方向を協議した。

★ 「第三世界の開発問題」あっせん

事務局は古今書院と提携し、同書院の新刊「第三世界の開発問題」(M.モリッシュ著 保科秀明訳 定価3000円)を、定価の一割引で協議会会員にあっせんしている。原著はイギリスの中等教育終了資格試験用の教科書で、開発問題を総合的に理解するための格好の入門書である。原著の刊行年が1983年なので、最近の展開は触れられていないが、基本的な開発問題はすべて含まれていて、事例研究や学習課題の提示など、学習の進め方にもヒントがだされている。また訳者も新しい統計資料を付け加えており、世界の開発問題学習のすぐれたテキストとなっている。イギリスでどういふ開発問題の学習が中等学校で進められているかを知ることもできる。

注文の方法は、同書院作成のはがき(1月に会員の手元に届けている)で注文すると、会員の手元に本が直接届けられ、会員が定価の一割引の料金を振り込むと、協議会にも定価の一割が手数料として入る仕組み。問い合わせは事務局まで。

【新入・継続会員】(敬称略、受付順、12月25日～2月24日)

<新入会員>

中右孝人(兵庫) 傍島剛司(岐阜) 沢崎洋介(大阪) 松本浩一(埼玉) 大内勇雄(茨城)
松村啓子(奈良) 堀本隆保(神奈川) 植村吏香(東京) 鳥居香代(静岡) 石井昭男(東京)
西浦昭英(神奈川) 秀島一光(東京) 井村 誠(愛知) 角田 仁(東京) 長坂二郎(埼玉)
森田公巳(大阪) 富谷直子(東京) 宮田正夫(東京) 外崎富代(東京) 安達弘一(東京)
木股菜穂子(神奈川) 東方みゆき(静岡) 西山 朗(京都) 西原まゆみ(千葉) 村上 朗(千葉) 瀧辺真美(神奈川)

<継続会員>

斉藤皓彦(鳥取) 金田卓也(茨城) 北 俊夫(埼玉) 坂田善子(千葉) 堀部ゆり子(埼玉)
吉田 正(大阪) 中野スミ子(東京) 二谷貞夫(新潟) 岩崎裕保(大阪) 木下 淳(埼玉)
馬場 清(東京) 前川 実(大阪) 西脇保孝(千葉) 青木朋子(大阪) 森 正恵(京都)
森 良(東京) 松尾 索(東京) 蓮沼美栄(神奈川) 藤原孝章(兵庫) 木村一子(愛知)
茂呂雅之(東京) 三島知斗世(愛知) 成沢真介(岡山) 西井和裕(愛知) 本田栄一(東京)
山中あゆみ(埼玉) 石井由美子(神奈川) 真部誠一郎(岡山) 幸田雅夫(東京) 大山恭子(愛知)
田中 力(東京) 広瀬和義(埼玉) 内田 幸(東京) 梅村治夫(京都) 奥村 功(大阪)
醍醐誠一(千葉) 四車ユキコ(広島) 荒武和枝(埼玉) 田中祥一(神奈川) 徳永由美子(奈良)
原子栄一郎(静岡) 加藤明宏(大阪) 植村茂男(大阪) 平岩継生(大阪)